

第27回日本獣医がん学会獣医腫瘍科認定医認定委員会 議事録

【日時】2024年2月26日（月） 20：00 -

【場所】Zoomにて開催

【議長】皆上大吾

【書記】林光児 五十嵐宏之 廣瀬僚 池田雄大

【出席者（順不同、敬称略）】皆上、堀、小山田、林、中島、水野、三宅、高木、成田、鈴木、塚田、伊藤（秀）、伊藤（哲）、井上、遠藤、橋本、古川、五十嵐、高梨、今井、佐々木、佐藤（恵）、佐藤（敏）、山本、児玉、諏訪、齋藤、杉山、中川（正）、中川（貴）、田戸、田川、武田、武信、池田、秋吉、廣瀬

報告事項

1. 2023年度獣医腫瘍科認定医合格者について

別紙資料1～3通り、各担当者より報告

2. Ⅰ種2次試験の合格基準改変に関する面接官審議結果について（皆上）

Ⅰ種2次試験の合格基準の改変について

- ・現状は平均点+1SD以上かつ、地雷問題不正解が2問までの受験者を面接官全員で審議し、半数以上の賛成を得ることで合格としている
- ・面接官より「全室において平均点以上」という新基準を設けることが提案され、面接官審議にて賛成5、反対3により可決された
- ・新基準の追加により急激な合格者数の変動がないように柔軟に対応したい
- ・新基準にて本年度の試験を行い、再度面接官審議を行いたい

3. 臨床研究委員会の腫瘍症例登録システムについて（中川）

- ・臨床研究の基盤形成のため、世界に先駆けて協力動物病院、協力獣医師による症例登録システムの構築作業を行っている
- ・データベースに症例が登録され、検索、抽出、解析、統計処理などができる。また世界中からアクセスが可能となる
- ・ミニマムデータ、診断、治療、予後などが個人情報のない症例情報として登録される
- ・弁護士と相談し、個人情報などの問題をクリアするための文章を作成している
- ・協力獣医師は腫瘍科認定医、協力病院は腫瘍科認定医の所属する病院が望ましい
- ・登録により、症例の体系的理解や抗がん剤のプロトコル等の情報が提供される

（皆上）

- ・1種の先生を中心に、2種の先生へも協力を仰ぎたい
- ・次回WVCCで本システムのポスター発表を行う予定。世界に先駆けて広めていきたい
- ・認定医更新条件の1つとして利用可能であると考えている

（古川）

- ・会社所属の獣医師であるため、会社の許可がない場合参加できない。更新の必須条件となると最悪、退職しなければならないため考慮いただきたい

(皆上)

- ・協力病院と飼い主とは、最終的に同意書を取る形になるであろう
- ・登録は更新の必須条件ではなく、選択肢の一つとして考えたい

(中川)

- ・病院と学会に関しても個人情報の扱いに関する文書を作製したい

(高木)

- ・海外では多施設間で協力して論文を作製している。日本においても本データベースを活用して論文化する方向性と考えてよいか
- ・論文化した場合、ファースト以外の位置付けはどうかオーナーについての決まりを明確にしておかないとトラブルとなるケースが懸念される

(中川)

- ・データベースをリファレンスとして使用することで誰でも利用可能としたい
- ・臨床研究委員会から働きかけて個別に先生の方々に論文化を勧めることもできる
- ・個別の情報提供者ではなく、オープンリソースを利用して情報を利用、デザインして論文化した先生の方々をオーナーとして考えている
- ・大学からのデータ引用の場合は別途検討が必要
- ・オーナーシップなどについては今後さらに明確にできるように検討していく

(皆上)

- ・大学などが全データを登録すると独自の論文が出しにくくなる可能性がある

4. 獣医療法施行規則の一部改正に伴う認定医広告制限と認定・専門獣医師協議会への参画申請について (皆上)

- ・今後は認定・専門獣医師協議会に認定された専門医、認定医以外は専門医、認定医である旨の広告ができなくなる。
- ・現在、日本獣医がん学会は参加表明をした状況であり、認定・専門獣医師協議会に認定されない限りは認定医について広告できない点に注意が必要である
- ・日本獣医がん学会は認定を行う団体としての認定に関しては要件を満たしている
- ・石田会長の名前で認定・専門獣医師協議会へ申請を行い受理された
- ・1種認定医は大丈夫であろうが、2種認定医が認定されるかどうかは現状では不明
- ・石田会長は認定・専門獣医師協議会のメンバーであるため、2種類の認定医に関して協議会に詳細に説明していただけると考える
- ・申請が認められるまでは広告について注意してもらいたい

審議事項

1、2種認定医試験の地雷問題に関して (皆上)

- ・難易度設定の問題であるのか、今回の2種認定医試験において地雷問題での不合格者が多かった
- ・筆記試験が無くなった影響もあり、設問は複数選択問題がほとんどを占めている
以前は単一選択問題を地雷問題にすることが多かったため、以前より難易度が上がっている
- ・今後も地雷問題を設定する場合は、択一かつシンプルで必須度の高い問題にするのが良いのではないか

(古川)

- ・学識経験者の意見もあり、5択問題について「正しいものを選択せよ」という5択のみで問題作成を依頼する予定
- ・現状、試験問題作成依頼をした先生のうち返送いただける先生は半数程度であり、返送された問題も問題数不足、出典の不記載などの不備が多い。各先生が作成した問題が地雷問題になる可能性がある点を意識して問題を作製してもらいたい

(皆上)

- ・1種、2種試験とも、今後地雷問題は継続する必要があるか。

(児玉(和))

- ・受験者の8割以上が正解しているなど地雷問題に最低条件を付けるのがよいのではないか
- ・1種試験と2種試験を分けて考えるべきである
- ・1種試験では臨床医として間違えてはいけないものを地雷問題とする、というのが最初の目的であった

(佐藤(敏))

- ・認定医委員会で石田先生よりご発案があり、その年の1種、2種試験から地雷問題が始まったと記憶している。以前は地雷問題の設定はなかった。

(杉山)

- ・口頭試問ではない2種試験では読み違い、マークシートのマークミスなども考えられるため、地雷問題は不要ではないかと考える。

(古川)

- ・2種試験での地雷問題を無くすと上位合格者と下位合格者との点差が大きくなってしまう

(五十嵐)

- ・臨床医として間違えてはいけない問題というものを残すのは重要ではあると思うので、地雷問題に選ぶ問題の設定をしっかりとした上で地雷問題は残した方がよい

(皆上)

- ・2種試験において地雷問題での不合格者はどの程度になるか

(古川)

- ・昨年と去年は地雷問題による不合格者が多かった。地雷問題を無くすと大幅に合格者が増加し、この合格者のペースであると1種試験がパンクしてしまうと考える

(武田)

- ・2種試験は点数のみのシンプルなテストが良いと考えるが、もし地雷問題を残す場合は2問不正解で不合格などの方が良いのではないか
- ・1種2次試験ではNG問題が4つの設定のうち1つまでは不正解がOKとされている

(皆上)

- ・地雷問題による過去の不合格者のデータを確認したい
- ・突然廃止した場合、急に合格者が増加する可能性がある

(古川)

- ・平均点+1標準偏差が合格ラインの時点で合格者数は一定数が保たれる
- ・例年も地雷問題での不合格者は14~15人位だと思われる

- ・得点上位者は地雷問題を2つ間違える事は少ないため、2つ不正解では絞り込みができない
- ・2種試験担当者間では地雷問題を完全に無くすという声は無かった
- ・地雷問題の継続、廃止については慎重に各委員に検討していただき、本日早急に決を採るのではなく別日で設定してほしい。

(皆上)

- ・2種試験担当者にデータ収集やデータを踏まえた提案をしてもらい、メール会議などで再度審議することとする。

以上

資料 1

第 13 回獣医腫瘍科認定医 II 種試験結果

試験実施日：2023 年 10 月 8 日(日)

会場:ベルサール新宿グランドコンファレンスセンター5F

- ・ 受験者数:322 名
- ・ 欠席者数:17 名
- ・ 最高得点:724.4 点 ・ 最低得点:247.2 点 ・ 平均点:530.8 点 ・ 標準偏差:95.4 点

【合格基準】

- ・ 例年同様に、平均点+1 標準偏差(本年度は 626.2 点)および診断学、治療学で地雷問題該当なし

【合格者/合格率】

- ・ 20 名/6.2%

(参考資料:2013-2022 年までの合格者/合格率は、16-45 名/7.6-15.9%)

認定委員会メール審議を行い、下記の通り、賛成多数で承認された 投票権:57 名
賛成:54 名(賛成票 30 名、返信なく賛成に組み入れ 24 名)

反対:2 名

保留:1 名

認定医 2 種担当

長田 保坂 五十嵐 高梨 古川

資料 2

認定医委員会 I 種一次試験報告

第 13 回 I 種一次試験結果

●試験概略

実施日:2023 年 10 月 8 日(日)

会 場:ベルサール新宿グランド コンファレンスセンター5F

●試験結果

出願者数 43 名 受験者数 40 名 3 名欠席

試験内容

診断学 記述 3 問 各 100 点満点 合計 300 点

治療学 記述 3 問 各 100 点満点 合計 300 点

合格基準:各問題平均点以上 地雷問題 2 題で不合格

合格者 8 名

担当:堀

資料 3

1 種 2 次試験担当

●報告事項(武田)

【試験概要】

実施日:2023 年 10 月 8 日(日)

会 場:ベルサール新宿グランド コンファレンスセンター5F

面接官(試験室順 敬称略):細谷・杉山 石田・小山田 小林・皆上 藤田・武田

- ・ 出願者数:25 名(前回 23 名)
- ・ 受験者数:24 名(前回 22 名)
- ・ 欠席者数:1 名
- ・ 最高得点:280.5 点
- ・ 最低得点:160.0 点
- ・ 平均点:229.8 点
- ・ 標準偏差:32.1 点

【面接官審議概要】

- ・ 例年通り「総合得点において平均点+1 標準偏差以上」「NG1 以下」の基準をクリアした上位 4 名について面接官 8 名で合否を審議した。
- ・ 「1 位のみ合格」と「4 名合格」と意見が割れたが最終的に面接官 8 名による投票により 4 名合格とした。

【認定委員会審議概要】

- ・ 審議内容は全認定委員にオープンなため詳細は割愛。
- ・ 概ね「4 名合格」が大多数であったが「1 名のみ合格」の意見も少数見られた。
- ・ 期間を延長し十分意見が出た後に例年に従い投票を実施。4 名合格で可決した。

全認定委員:59 名

賛成:53 票(事前の取決により白票は賛成票として計上)

反対:6 票(1 名合格支持:5 票、2 名合格支持:1 票)

・ 例年の合格率

2009 年度: 9.1%(2/22) 2010 年度:20.0%(3/15) 2011 年度:11.1%(1/9) 2012 年度:16.7%(2/12)
2013 年度:20.0%(2/10) 2014 年度: 6.7%(1/15) 2015 年度:11.8%(2/17) 2016 年度:15.8%(3/19)
2017 年度:11.1%(2/18) 2018 年度:15.0%(3/20) 2019 年度:13.6%(3/22) 2020 年度:中止
2021 年度:12.5%(3/24) 2022 年度:4.5% (1/22) 2023 年度:16.6%(4/24)

・来年度以降について委員長より

①1種2次試験で一定の基準を満たした受験者を対象として、『認定医1種として相応しいか』について面接官全員で議論した上で投票を行い、過半数以上の得票を得たものを合格候補者として認定委員会に提案する。

②認定委員会では『合格候補者案およびその選抜過程の正当性』について審議を行い、委員の過半数の承認を得た場合には合格候補者案を理事会に提案する。委員会で否決された場合には、全面接官審議に差し戻して再度合否判定を行う(この際、委員会審議で上がった合格基準に関するご意見を参考に再審議する)。

③合否判定基準を変更する場合には、学識経験者や外国専門医を含む当該年度の面接官にて審議する。(今回頂いた追加の合否判定基準『全試験室で平均点以上』についても今年度検討し、承認される様であれば来年度以降の合否判定から適用する)

④来年度以降メール審議を行う場合には Google form による投票を行い、賛成票、反対票、白票を開示することにする。

【今後の予定】

・2月中旬に合否発表、登録申請手続き開始。

・夏のがん学会にて認定証授与式実施。